

目指すべき将来都市像

～明るい未来への道筋をつける～

このたび、市民の皆様の負託をいただき、引き続き公の重責を担わせていただくこととなりました。この上は、身の引き締まる思いとともに、市政の進展に最善を尽くす覚悟であります。

さて、地方自治体を取り巻く環境は、「国際情勢の不透明感の増大」「人口減少・少子高齢社会の進展」など、激動の流れの中にあります。本市は、この先においても「オール亀山」の英知と協働により、この変化の時代を乗り越えてまいります。

また、健やかで優しい暮らしを支える「地域共生社会の構築」「若者の定住促進」「母子保健・周産期医療の拡充」を急ぐとともに、DX（デジタル変革）による超スマート社会への対応にも万全を期してまいります。

と考えます。さらに、新市施行から 20 年を経て、市民力で地域力が輝くまちづくりを進めてきましたが、「地域予算制度」のバージョンアップや「市民協働センター みらい」の機能強化などの新展開により、本市の強みである「地域力と文化力」に磨きをかけてまいります。

一方、次なる 4 年は、四半世紀以上にわたり積み重ねてきた「リニア中央新幹線・三重県停車駅」の展開が、新たな段階へ移行するものと思われます。これを千載一遇の好機ととらえ、多様な産業・雇用の創出とあわせ、次なる活力と未来へ向けた着実な取り組みを進めてまいります。

これら内外の環境変化を視野に入れた、次期中長期ビジョンとなる「第 3 次亀山

「緑の健都 かめやま」へ！

市総合計画」の策定を進め『緑の健都 かめやま』の進化をめざすとともに、現在、直面するごみ処理施設をはじめとする4つの大規模公共施設の更新等への対応方針・事業手法の確立、財務構造の改革こそ、本市最大の行政課題であり、今一度、強い意志をもってその取り組みを進めます。

私たちは、新市施行からの20年の歩みを土台として、しなやかなる地域社会の創造と明るい未来への基盤づくりを急がなければなりません。今を生きる一人として、「分度・推譲」の精神に基づき、本市の分度を定め未来への道筋をつけることが、与えられた我が使命と考えるものです。

理想とするまちは未だその途上にあります。今一度、私は初心に戻って、この公の

責務を全うしてまいりたいと存じますので、引き続き市民の皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



亀山市長

櫻井義之